



〈前号のあらすじ〉

一郎が慕う剣の師匠の水瀬十蔵が居候していた井坂家を出たのは、十蔵が幕府のお庭番であると知れたためだ。追っ手の兵馬と手下たちは杖で打倒したが、十蔵は崖から谷に落ちてしまう。それを報告してきた兵馬と井坂多門の話を読み聞いた一郎は、兵馬たちの後をつけ、十蔵が落ちた鉾山への地図を手に入れる。そして、幼馴染の三太や道場の仲間たち、許嫁の菜緒と共に十蔵を助けに向かった。

—

「みんな、踏んばれ！」

「おー!!」

ざらつく太陽の下に少年たちのかけ声がひびき渡る。